

ヨハネ 17 章—イエスは、ご自身をとおして、弟子たちをとおして、さらには後世の信徒たちをとおして、神が栄光をお受けになるようにと祈られた。

### ヨハネ 17:1-26

17:1 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。17:2 それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。17:4 あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。17:5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。17:6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。17:7 いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。17:8 それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。17:9 わたしは彼らのためにお願います。世のためにはではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。17:10 わたしのもはみなあなたのもの、あなたのもはわたしのもです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。17:12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。17:13 わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。17:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。17:19 わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも願います。17:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいたように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。17:22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。17:23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたことを、この世が知るためです。17:24 父よ。願います。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。17:25 正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。17:26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしも彼らの中にいるためです。」

### ヨハネ 17 章の背景

まず、ヨハネ 17 章の背景を知る必要があります。11-20 章で、ヨハネはイエスの死とその意味について教えます。その意味とは、今この世における意味と、永遠における意味の両方を指します。

11-13 章で、イエスはご自身の死がいのちを成就すると教えてください。それは、イエスの死が罪とサタンの問題を解決してくれるからです。13-17 章は「二階の大広間の教え」と呼びましたが、その中で、イエスはご自身が死んで、おられなくなることが弟子たちにどのような意味を持つのかを説明なさいます。

この「二階の大広間の教え」は、ふたつの部分に分けることができます。前半は、イエスがおられなくなることに関する弟子たちの質問に答えます。後半は、神の民がイエスの弟子として耐え忍ぶことの大切さを教えます。弟子たちがそのように耐え忍ぶなら、彼らに与えられた神の目的が達成されます。その目的とは、実を結ぶことです。実を結ぶとは、人々を弟子とすることを意味することが、これまでの学びでわかりました。イエスは、それをいつまでも続く実と呼ばれます。

クリスチャンの働き人として 30 年以上が経ちましたが、イエスを信じる信仰を告白する人たちは、適切に訓練される必要があることを経験から学びました。適切な訓練を受けた人は、100%の保証はありませんが、イエスに忠実に従っていく可能性が高いと言えます。

17 章のイエスの祈りは、11 章から始まった教えに基づいた祈りです。

この祈りの中で、イエスにはひとつ重要な関心事があります。それは、イエスご自身をとおして、弟子たちをとおして、そして、後世の信徒たちをとおして、神が栄光をお受けになることです。

このことを念頭に、今日の個所を学んでいきましょう。

今日は 17 章を 3 つに分けてお話していきます。

最初は 17:1-5 です。—イエスは、父なる神に力を与えていただいてご自身の働きを完成させ、父なる神のご計画を成就してくださるようにと祈られます。

1 節と 5 節はいっしょにすることができます。このふたつは同じ願いが込められています。

ここでイエスは、ふたつの「栄光」を祈っておられます。まず、イエスご自身が栄光を受けるようにと祈っておられます。その結果、その栄光を神にお返しすることができるためです。(1 節)これは、イエスの十字架上の死のことです。イエスは、「時が来ました。」とおっしゃいました。これは、イエスの死の時という意味です。

栄光を求める祈りの後半は、5 節に見られます。ここで、イエスは、この世が始まる前に持っておられた「栄光」をふたたび父からいただけるようにと祈られます。

「栄光」という単語は 1-5 節で 5 回登場します。ですから、この言葉の意味を理解することが大切です。答えは常にみことばの中にありますから、ヨハネの福音書の中でこの単語が登場する個所を見つけなければなりません。そうすることで、もう少しわかりやすくなるでしょう。

ヨハネ 2:11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

水をぶどう酒に変える奇跡は、イエスの「栄光」を現しました。

ヨハネ 11:40 イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

ラザロが死から復活したことは、「神の栄光」の証拠でした。

このことから、神の「栄光」は、奇跡の中に見られることがわかります。

しかし、もっとも偉大な「栄光」は、イエスの苦しみと死をとおして現されるとヨハネは教えます。

ヨハネ 12:23-25 と 13:31-32 を読みましょう。

ヨハネ 12:23-25

12:23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。12:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。12:25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。

ヨハネ 13:31-32

13:31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。13:32 神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。

次に、神の「栄光」の中で一番大切なことは、イエスの十字架上の死です。そして、イエスを信じる人のためになされた十字架の御業です。

つまり、神が何よりも栄光をお受けになるのは、私たちが神の奇跡の働きを認め、イエスが十字架上で苦しみと死をとおして成してくださった御業の福音を告げ知らせることです。

こういうわけで、OICの私たちが尽力すべきことは、耳を貸してくれる人たちにはっきりと福音を伝えることと、その人たちの中で働かれる神の聖霊に彼らが心を開くように祈ることです。

次に、イエスは永遠のいのちという賜物について祈られます。「永遠のいのちの賜物」を得るのは、イエス・キリストが成してくださった御業のおかげです。17章全体では、「与える」など、「賜物」を指す言葉が17回使われています。

イエスは「信徒」たちが父から御子へ与えられた賜物だと7回おっしゃいます。(2, 6, 9, 11, 12, 24 節)

私たち信徒にとっては、イエスが父から私たちへの愛の「賜物」です。(ヨハネ 3:16)

しかし、ここ2節では、主が「信徒たち」のことを父から御子への「愛の賜物」だとおっしゃいます。

そんなふうに考えたことはなかったかもしれませんが、ここでははっきりそのように教えておられます。

私たちがイエスを信じ、イエスが私たちのすべての罪のために十字架上で死んでくださったことを受け入れるなら、私たちが神から神の御子イエスへの「愛の賜物」となるのです。

日本では贈り物はとても重視されます。たいていは感謝の気持ちとして贈るのですが、西洋では「お返し」という考えはありません。けれども、誰かに何か大きな贈り物をして、そのお返しにささやかなプレゼントをもらうのはなかなかよいものです。

私たちはある意味で、神からイエスへのお返しの贈り物です。

神は永遠のいのちを与える救いのために、私たちにイエスを与えてくださいました。イエスは私たちの罪の罰を受け、惨い死を遂げられました。しかし、イエスが救い主であると私たちが信じるなら、私たちが神からイエスへのお返しの贈り物となります。

私たちにそんな価値はないと思うかもしれませんが、イエスにとっては「神からの賜物」という尊い存在です。イエスの目に私たちは尊いのです。

2.イエスは次に、弟子たちのために祈られました。(6-19 節)

弟子のための祈りをふたつに分けて見ていきましょう。

まず、6-10 節です。ここでイエスは、弟子たちが誠実に信頼できるとおっしゃいます。

イエスは御父に、父なる神から受けたものはすべて弟子たちに伝えたとおっしゃいます。弟子たちは、この受けたものをさらに伝えていく精神的な準備はできています。しかし、神の力をもって伝えるには、神の聖霊が必要です。

弟子たちは、3年余りの期間、試され鍛えられてきました。そして、イエスは彼らを聖霊の働きにお任せしようとなさっています。みことばを伝えるために神がしもべを遣わされる前に、練られ、試される時期というのがあります。残念ながら、現代の多くのクリスチャンは、そのような訓練なしに出て行ってイエスを告げ知らせようとします。

### たとえ

例えて言うなら、豆を挽いてフィルターで入れるブレンドコーヒーではなく、インスタントコーヒーのようなものです。

外見は同じでも、味は違います。

弟子たちはこの訓練に喜んで応じました。そして、イエスは弟子たちのために祈られました。

この個所で、イエスがどのように弟子たちのために祈られたかがわかります。

1. イエスは、弟子たちが守られるように祈られました。
2. イエスは、弟子たちに喜びがあるようにと祈られました。
3. イエスは、弟子たちの働きのために祈られました。

#### 1. イエスは、弟子たちが守られるように祈られた。(12,15 節)

イエスは、この世にいる間弟子たちを守ってきたとおっしゃいました。ご自身の御名の力によって弟子たちを守られたのです。聖書の中では、人の名がその人の人格や働き、行いなどを象徴します。イエスは、この世にいる間、ご自身の存在そのもので弟子たちを守ってきたとおっしゃいます。

そして今、イエスは弟子たちの身を案じておられます。イエスがこの世を去られるからです。弟子たちがこの世に憎まれ、迫害に遭うことをイエスはご存知です。しかしイエスは、弟子たちがこの世から取り去られるようにとは祈らず、サタンから守られるようにと祈られました。

#### 0. イエスは、弟子たちに喜びがあるようにと祈られた。(13 節)

弟子たちにただの喜びがあるようにと祈られたのではありません。イエスが祈られたのは、弟子たちが「イエスの喜び」を持つことです。イエスを感じたのと同じ喜びを心に持つことです。喜びというのは興味深い言葉です。それは、「幸せ」とは違います。幸せは私たちを取り巻く状況に左右されますが、喜びは心の状態によります。

弟子たちを取り巻く状況が悪化していくことをイエスはご存知でした。迫害され、牢に入れられるようになるのです。周りの状況は良いものではありません。それでも、弟子たちは心に「喜び」を感じることができます。その喜びが、状況を乗り越えられるように助けてくれるでしょう。イエスは弟子たちが迫害に負けず、勝利者になることを望まれました。

弟子たちはどのようにしてこの「喜び」を得ることができるのでしょうか。祈りの中で神とともに過ごし、聖霊をとおして神のご臨在を知ることによってです。神のご臨在とは、目に見えなくても、感じられるものです。

聖書には、従順な信徒に対して神のご臨在が約束されています。

ヨハネ 14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。

私たちを取り巻く状況は日々変化します。健康や経済状況、転職、引越などさまざまな理由があります。しかし、どんな変化が起こっても、日々祈り、聖書に親しむことをとおして、イエスのみそばを歩み、神との絆を育んでいるなら、常に心に「喜び」を持っていられます。

数週間前、イギリスにいる祈りの支援者から手紙をもらいました。その人は、80歳代で健康問題を抱えています。しかし、彼女には大きな「喜び」があります。なぜでしょう。それは、イエスとともに時間を過ごしているからです。彼女はここにいる OIC の私たちのために祈ってくれています。

### 3. イエスは、弟子たちの働きのために祈られた。(17-19 節)

「聖め別つ」という言葉は、「聖なる」と同じ語源です。これは、「聖なる」ものとするために取り分けるという意味です。聖書は全体的に「聖め別つ」という単語を個人のきよめに対して使いますが、この個所の内容のように、聖なる神がご自身の民を目標や働きの上でご自身に似たものとされるという意味も含みます。

この個所でヨハネは、目標や働きの上でイエスのようになることを明らかに示しています。

イエスは、弟子たちに明かされた「真理」によって、すでに弟子たちをこの世と分けておられます。

ここでは、使命をもってこの世に出ていくという務めのために彼らを聖別するとおっしゃいます。

弟子たちがその使命を果たせるようにイエスは願われます。弟子たちは、イエスに教えていただいたすべてのことを人々に教えるという務めを携えてこの世に出ていくのです。

神がイエスの祈りに応えてくださると、神の永遠のご計画が成就します。

イエスは、弟子たちがご自身のように聖く生きるだけでなく、神の御怒りからたましいを救う働きにおいても、イエスのようであるようにと祈られました。

### 3. さらにイエスは、後世のクリスチャンのために祈られます。(20-26 節)

この祈りは、時代や文化を越えてイエスに属するすべての人たちに向けられたものです。

つまり、今日ここ OIC にいる信徒も全員含まれます。

イエスは、すべての信徒が一致するようにと祈られます。

「一致」という言葉の意味に注意しなければなりません。同じ教会に行っているからとか、友だちだからといったような感傷的な一致ではありません。

ヨハネはこの一致を、父と御子の間にある一致と同じだと説明します。

これは 21 節にあります。単なる互いの一致ではありません。御父と御子の一致は、目的意識における一致です。イエスがご自身をささげて父に従い、十字架上で死なれたことがその証です。

御父が御子に与えられた栄光は、福音の知らせの栄光です。

福音の素晴らしいことは、創世記 3 章にある人の墮落を無効にする力があることです。

ですから、神の民の一致は、永遠のいのちを伝える福音を土台としたものです。

福音の知らせを焦点としていないことのために信徒たちが団結することとはまったく無関係です。

一致の目的は、福音を告げ知らせることであるべきです。

1950年代から1990年ごろにかけて、ビリー・グラハムは福音を知らせるというたった一つの目的をもって、多くの教会を巻き込んだ伝道大会を各地で開催しました。この時代に、ビリー・グラハム率いるチームほど、福音伝道の上で祝福された人はいなかったと言えるでしょう。これは、イエスの祈りの答えです。

イエスは最後に、すべての信徒が天国にたどり着き、永遠にイエスの栄光を分かち合えるようにと祈られました。(24-26節)

すべての信徒がいつか天国に行って、イエスとともにいることができるようにというイエスの祈りです。

信徒である私たちにとっての良い知らせは、神が常に御子イエスの祈りに応えてくださることです。ですから、私たちは必ずいつか天国に行きます。

ウォーレン・ウィーズブは24節について注解書の中で、葬儀のメッセージにこの個所をよく引用すると語ります。

ウィーズブはまず、「クリスチャンが天国に行けることを、どうやって確信できるでしょう」と問いかけます。

そして、次のように要約して答えます。

すべての信徒が天国に行けると確信できるのは、

1. イエスが犠牲を払ってくださったから—ヨハネ 3:14-16
2. イエスが約束してくださったから—ヨハネ 14:1-6
3. イエスが祈ってくださったから—ヨハネ 17:24

自分の葬儀をあらかじめ準備しておきたい人は、葬儀の司式を依頼する牧師に、この要約を使ってメッセージをしてくださいと頼むのもひとつのアイデアでしょう。

## 17章の適用

17章から学んで私たちの信仰生活にあてはめるべき大切なことがあります。それは、イエスが弟子たちと私たちのために祈られたときにもっとも優先されたことを私たちも大切にする、ということです。

イエスの優先されたことは、十字架での働きを成し遂げ、原罪による人間の墮落を無効とすることです。イエスは身代わりとなって罰を受け、死なれました。また、この働きによって神の民を皆ひとつにし、失われた世に福音を携えることです。

失われた世でイエスの証人となるのが、ここOICでの最優先事項であるべきです。また、日本中の教会、世界中の教会の最優先事項であるべきです。

イエスの証人となるのはたいへんですが、これこそ私たち信徒のおもな務めです。

エゼキエルにとっても、神のことばを告げ知らせるのは私たちと同じようにたいへんなことでした。

### エゼキエル 2:1-5

2:1 その方は私に仰せられた。「人の子よ。立ち上がれ。わたしがあなたに語るから。」 2:2 その方が私に語りかけられると、すぐ霊が私のうちに入り、私を立ち上がらせた。そのとき、私は私に語りかけることばを聞いた。 2:3 その方は私に仰せられた。「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの民、すなわち、わたしにそむいた反逆の国民に遣わす。彼らも、その先祖たちも、わたしにそむいた。今日もそうである。 2:4 彼らはあつかましくて、かたくなである。わたしはあなたを彼らに遣わす。あなたは彼らに『神である主はこう仰せられる』と言え。 2:5 彼らは反逆の家だから、彼らが聞いても、聞かなくても、彼らは、彼らのうちに預言者がいることを知らなければならない。

神が私たちを助けてくださり、ここ日本で神の証人として用いられますように。神が日本人の間においてくださることを人々が知ることができますように。